

## あなたのそばで県議会（大隅地域）

開催日時 令和5年11月18日（土）午後1時30分～午後3時30分

開催場所 有明地区公民館

参加者 一般県民110名 県議会議員44名

内容 ①議会活動の説明

②意見交換

テーマ「あなたの考える大隅地域の未来について」

### ○意見交換会で出された質疑の項目

- 1 娯楽施設の増加について
- 2 大隅半島の交通手段の整備について
- 3 児童館について
- 4 大隅地域における人口減少について
- 5 大隅地域におけるインフラ整備及び人口減少について
- 6 農畜産業振興について
- 7 特別支援学校について
- 8 大隅地域の県議の活動について
- 9 ①国道の維持管理について  
②大隅地域振興局曾於市駐在の職員数について  
③志布志保健所の建替えについて  
④志布志港の道路・公園管理について  
⑤観光に向けた枇榔島の整備について  
⑥志布志ICの植栽について  
⑦県道3号線日南志布志線の拡幅について
- 10 農産物の輸送コストについて
- 11 常任委員会のインターネット中継及び県議会臨時会における討論について
- 12 広域での連携，高等学校・専門学校等の誘致，外交・安全保障について
- 13 和牛のPR・消費拡大について
- 14 空き家対策及びバスケットコートの整備について

## ○意見交換会で出された質疑の主な内容

### 1 娯楽施設の増加について

大隅地域では高速道路の整備が進み助かる面があるが、高校生からすると、遊ぶ場所が身近にもっとあれば、住みたい故郷になるのではと思う。

(西高悟 議員)

地元の高校生が、人口減少や地方に元気がないことを非常に感じているという事を今回の質問でつくづく思ったところである。

地元の若い方々に知っていただきたいのは、都城・日南・串間方面まで含め大隅地域は志布志港が経済の中心となっており、工業団地もどんどん埋まる状態で、私達は地域に若い方々が就職して住んでいただくための政策を一生懸命進めてきたということである。

そのような中で、若い方々が遊べる娯楽施設とは、どういったものがあるかと考えていたが、ショッピングモールといったものは、企業が人口や買い物客のリサーチを行って造っていくので、企業の考え方1つで、なかなか難しいのだろうと思っている。

ただ、私達の地域で言うと、スポーツ合宿を中心にスポーツ関連の観光客を呼び込もうと色々な施設を整備しており、それが若い方々や地元の方々がスポーツをしたり、娯楽を楽しめるような施設になるようにと進めている。ジャパンアスリートトレーニングセンターは、日本で一番のトレーニング施設で、かなり地元の方々に利用いただいている。

志布志ではサッカーや自転車競技の全国的な大会が行えるように動いている。サッカーに関しては、日本サッカー協会の公認の芝も使った人工芝のサッカー場も造っている。潮風公園の整備など、地域の皆さん方が体を動かすための娯楽の施設というものに関しては、今は充実しつつあると思っている。

そういったものも含めて、後は若い方々が楽しめるような娯楽施設をまたもっと具体的に教えていただければ、そのことも可能であれば、進めていきたいと思っている。

何よりも、こうやって今回質問をいただいた若い皆さん方が、自分たちの志布志は良いところだ、大崎は良いところだ、しっかりとした企業があるから就職して地元に残ろうと思うような、素晴らしい地域になるように頑張りたいと思っている。私たちの志布志が、しっかりと大隅半島の経済の中心になるように、私達も頑張っていくので、ぜひ地元の素晴らしさを感じて、地元に残っていただきたいと思う。

## 2 大隅半島の交通手段の整備について

中学校に勤務している。3年生の生徒に「あなたのそばで県議会」への質問を聞いたところ、交通網の整備についてが一番多かった。また、交通手段で進学する高校を決める、私立はスクールバスがあって羨ましいという意見が多かった。公立高校もそういうバスがあればなということではないかと思う。市町村でいろんな乗り合いバスとかがあるが、それを例えば朝2便、夕方2便とか、市町村と県で連携を取り合って、登下校のバスの運行ができないものか。

(前野義春 議員)

アイデアも含め、生徒へのアンケートに基づくものということで大事な話を聞いた。2024年問題というのが今あり、バスの運転手が足りない、トラックの運転手が足りない、タクシーの運転者がいないという状況に日本国中が陥っている。スクールバスだけでなく、交通弱者と言われる方々が病院に行ったり、買い物に行ったり、その交通手段さえ無くなってしまおうという状況がある。大隅地域に限ったことでなく、全国的な状況であることをまず御理解いただければと思っているところである。

大隅半島で運行されているバスの路線についても、乗車する方も少ない、運転手が少ないということもあり、バス会社が廃止したいというのを、それでは困るという事で、県と沿線の市町が、お金を出して代替のバスということで変わりなく運行できているというのが実態である。学校に通う生徒さん方の交通手段の確保についても、この路線を使っている方々が変わりなく今のところは使えているということになっている。

しかし、登校時間に間に合うバスがいなくなった、あるいは下校する際に早く帰りたいが1時間待たないといけないとか、そういう状況が起こってるということは確かである。

買い物や病院への交通手段を確保するために市町が運行している小型のマイクロバス、そういうものを使って、何とか登下校だけでも運行ができないものかという御提案だった。

非常にユニークな、あるいは画期的なアイデアだと思うので、私どもも県や市町村等と、これからはいろんな相談をし、県議会の方に貴重な意見をいただいたので、機会あるごとに何らか探っていければと思っている。

## 3 児童館について

大隅地域には、登録した人が利用できる学童などはあるが、児童館のように誰でも行くことができ、交流ができるという場所がないように感じる。安心して放課後を過ごせる児童館があったり、乳幼児の子供を持つ母親とかが交流できるような施設があれば、子育ても楽になり住む人も増え、人口の減少の改善になるのではないか。

(大久保博文 議員)

小学生以下の子供については児童クラブなどがあり、御家族でもそれなりに過ごせる場

所があるが、18歳未満の全ての子供が対象とされている児童館を充実させることは、中学生や高校生、特に活動していない子供達にとって放課後を過ごす場所の確保として大事なことだと思っている。

現在、児童館は鹿児島県で17施設、大隅地区では志布志に2施設あるということだが、児童クラブに比べて数の少なさは否めないと思っている。小中高生の過ごす場がないと非行に向かってしまう例もあると聞いているので、子供の居場所ということが大事だと思っている。

児童館以外の公共施設の活用というものも考えられると思っている。学習センターの利用をある程度の時間まで認める、公共施設のロビーなどを子供も居る場にするなど、そういった中学生・高校生を対象としたような居場所づくりというのも大事だと思っている。

地域の小学生・中学生と保護者が一体となって、地域づくりをする子ども会育成会という活動が町内会毎に昔はあったが、今はどんどん無くなっている。子ども会育成会の活性化というものも、子供の居場所づくりに役に立つのではないかなと思っている。

地域子育てサポートについては、地域子育て支援拠点というものがあり、県内の39市町村に111箇所ある。志布志にも2箇所あるが、この拠点は保護者の相互の交流や子育てについての相談、情報提供などを行う場として設置されている。大隅全体では23箇所に設置されており、こういったところを通じて子育て支援を行っていく必要があるのかなと思っている。

私の経験でも、初めての妊娠・出産というのは皆不安である。そういった中で、地域によっては、妊娠したお母さん方を地域の方々も集めて交流させる「たまごクラブ」、出産して間もないお母さん方を同じように集める「ひよこクラブ」というような名称で運営されているところもあるようだ。そういった場を提供し、保健師などの専門の方による子育て支援や、子育ての悩みを交換する場を確保していくことも大事になろうかと思っている。

なお、県議会では家庭教育支援条例を議員発議で制定し、家庭教育の支援について組織横断的な取組が行われるよう提言をしているところである。

#### 4 大隅地域における人口減少について

大隅地域は、特に鹿児島市がある薩摩半島に比べても限界集落が多く、人口減少もより進んでいる。先ほどの質問のように、交通網が限られていたりすることも原因の一つではないかなと思う。人口減少について、これからどのように対策、政策などを行っていくのか聞きたい。

(角野毅 議員)

人口減少についてだが、昭和29年、奄美群島が復帰して戦後初めて鹿児島県の人口は200万人という数字に到達した。その翌年、昭和30年には204万4000人、これをピークにどんどん減少し、令和4年10月1日には156万人。相当な人数が減ってきている。

地方創生ということを御存じでしょうか。地方創生というのは、いわゆる少子高齢化の進行であったり、人口減少といったような問題について対応していけるような。地域が持

続的に発展し、地域に住む方が働いたり、子供を育てたり、暮らすということが充実している、そういうことを目指す政策である。

これは国が進めている政策であり、鹿児島県も少子高齢化や人口減少というのは、本当に切実な問題であり、「第2期鹿児島県まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、県と各市町村とが連携をしながら、この問題について対応していこうということで、結婚、妊娠・出産ができる体制をつくるとか、地域産業の人材を確保するといった政策に取り組んでいる。例えば、結婚については、よりたくさんの方々が結婚する機会をつくれるようなマッチングの事業、妊娠については不妊治療の費用を助成する事業、出産・子育てにかかる交付金の事業に取り組んでいるというのが現状にある。

交通事業者もすごく困っていることが人材不足。運転手がない、公共交通を走らせることができないという問題を抱えている。県としては、その人材を確保したり育てたりする、そういうものへの支援も行いながら、地域で困っている交通弱者の方々に対する支援に繋がるような動きということを現在進めているところである。

## 5 大隅地域におけるインフラ整備及び人口減少について

大隅半島は薩摩半島に比べてインフラ整備が遅れている。中でも大隅地域は不便な所が多い。我々は高校生だがバスも少なく選択する学校に限られる。高齢者もバスがなければ移動できない。それが人口減少につながっていると思う。また、人口減少によってどういうことが良くないのか、人口を減らさないためにどういうことをしているのか教えて欲しい。

(郷原拓男 議員)

非常に貴重な視点からの質問を高校生にいただいた。それぞれのポイントについて、本日、既に議員の方から回答いただいた部分と重複しているところもあると思うが、補足的な部分で話をさせていただきたいと思う。

薩摩半島に比べて大隅半島のインフラ整備が遅れているのではとの御指摘もあったが、多くの大隅選出の県議会議員や国会議員など色々な方の尽力のもとで東九州自動車道の整備がどんどん進んでいる。また、大隅縦貫道、都城志布志道路などの公共インフラ整備というものが進んでいると思っている。交通の重要性は、道路整備にも多大なる部分が依存していると認識しており、しっかりと頑張っていかなければならないと思っている。

人口減少によってどういうことが良くないのかとの質問もいただいた。せっかくお客様がいるのに、製品を求める方がいるのに、従業員が不足しており供給ができない。従業員の不足で供給力が担保できないことにより、稼げる部分が稼げない。取りこぼしが起こってしまうことがあるのではないかとと思っている。また、1人当たり125万円ほどの年間消費額があると言われているが、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、鹿児島県の人口は2045年に120万4000人、2060年には97万8000人。現在160万人ほどの人口であり、2045年には40万人ほど減るとするならば、40万人に125万円を乗じた年間消費額が消失してしまうということが懸念されると思っている。

経済的な側面からそういったことが言えると思うが、ではどう対応するのかと。それが生産性の向上であったり、あるいはデジタル化の推進であったり、あるいは、外国人の方々を技能実習生として雇用したり。あるいは、賃金を物価上昇率よりもっと高くすることによって経済的な豊かさを享受することにより、子供を産み育てやすい環境を作っていくということが求められているというふうに思っている。

私自身も子供が5人おり、やはり子供1人について非常にお金がかかると思っている。多方面から様々な施策を総動員することが、子供を産み育てやすい環境整備につながっていくんだという思いのもとで、色々な知恵をいただきながら、県政に反映できたらというふうに思っている。

## 6 農畜産業振興について

昨今の国際情勢が日本の農業に自覚を投げかけていると思う。国が「食料・農業・農村基本法」の見直しを進めているが、地方の現状は荒廃地の増加、畜産業も赤字経営から脱却できていない。畜産業も含めた大隅の農業を魅力ある稼げる農業に向けたプランはあるのか。

(瀬戸口三郎 議員)

畜産業界は本当に、畜産だけでなく農業は、ウクライナ情勢などの問題で飼料や資材が高騰し大変苦しい。それに増して子牛価格が大暴落しており、大変な時期に入っていると思っている。

県としてもその辺をしっかりと捉え、大規模畑地かんがいの推進、畜産設備の整備事業などに色々取り組んでいる。また、いい肉がだぶついている状況であることから、PRをしっかりとしていこうと県では取り組んでいる。

また、輸出をしっかりとしていこうと取り組んでおり、令和7年度の鹿児島県の農林水産物の輸出額の目標を500億円としている。令和4年度の農林水産物の輸出額は327億円、そのうち畜産が134億円。中でも和牛が124億円となっている。令和7年度の農林水産物の輸出額を500億円と見込んでおり、これは必ずや突破していこうと思っている。その主たるものが和牛である。

また、食料安全保障の問題等もあり、県としても、自給率を高めようということをやっている。スマート農業についても、牛の分娩を知覚したり、あるいはロボットを入れたり、そのような、スマート農機や機器の導入ということに支援をしていこうということを進めているところである。

## 7 特別支援学校について

自分は鹿屋市からの参加であるが、志布志市の方から、特別支援学校に通う子供達が鹿屋の特別支援学校でなく、牧之原まで行かねばならないと聞いた。どうか改善できないか。県議会ではどのように考えているのか。

(西高悟 議員)

牧之原養護学校の狭隘化と長時間のバスの乗車問題、出水養護学校の長時間のバスの乗車問題、鹿屋養護学校の狭隘化の問題、この3つについて検討しなさいということで、令和4年度に鹿児島県特別支援学校等教育環境改善検討委員会が立ち上げられ、令和5年2月に検討委員会から教育委員会へ検討結果についての提言がなされた。特別支援学校の分置について、まず1番目に曾於地区、次に伊佐・湧水地区、3番目に始良地区という内容が検討結果として出されたところである。

それを受けて伊佐・湧水地区、曾於地区から候補地が挙げられており、始良地区については、今のところ分置よりも、まずは高速バス利用による乗車時間短縮を行うこととしている。

候補地については検討委員会と各地区で検討協議が行われており、新年度の調査費をつけるための候補地選定が年度末までにはなされると思っている。これを受けて、いよいよどこに特別支援学校の分置を行うかが動き出すということである。なお、養護学校というのは去年までの名前であり、今年からは特別支援学校ということになっている。

鹿屋の特別支援学校については、今年から来年が260名と一番のピークで、令和11年には234名という見込みである。また、もし狭隘化した場合は用地が足りているので増築となるのではないかというのが教育委員会の考え方である。

私達は県議会の常任委員会において、そういうところの検討内容について、色々質問をしながら進めているというのが現状である。

## 8 大隅地域の県議の活動について

大隅地域の県議会議員を含めた連合会はできないか。高速道路も整備が進み、志布志港という海外に向けた海路、海上自衛隊もある。この大隅から農林水産大臣、自民党の総務会長、全国商工会連合会の会長、JA全中の会長を輩出しているタイミングで、そういった連合会により食料供給基地としての呼びかけができないか。

(鶴田志郎 議員)

大隅地域振興局管内の県議会議員7名で、大隅地域振興議員連盟というのを結成している。鹿屋市・垂水市区の前野議員、大久保議員、郷原議員、角野議員、曾於市区の瀬戸口議員、志布志市・曾於郡区の西高議員、肝属郡区の私の7名である。

我々の一番のテーマは、人口減少社会の中で、いかに地域の力というものを維持向上さ

せていくか。それから鹿児島県は貧乏県と言われ財政が非常に厳しい。令和5年度の予算が大体8800億円で自主財源は約3割ぐらいであり、国からの地方交付税と交付金等でまかなっている大変厳しい状況である。

そういった中で、例えば社会基盤の整備であれば東九州自動車道。未だに宮崎では事業を実施するか分からない、いわゆる未事業化区間がある。加治木ICからの4車線化も着々と進めているところである。都城志布志道路、志布志港、大隅縦貫道、こういったところをしっかりと充実させることにより地域の力を上げていく。さらに、災害多発県であるので、河川・砂防・港湾といったところについて、今後ともしっかりと国民の生命と財産を守っていく基盤として造ってまりたいと考えている。

また、この地域の基幹産業である農林水産業。これも鹿児島県も全国で第2位の農業県であることから、今後しっかりと頑張ることにより、農家、林業者、漁業者の方々の所得の向上をしっかりと図っていく。これが重要であると考えている。

また、コロナで大変傷ついた医療福祉、教育。こういった各般のところを、それぞれの地域で議員が一丸となって向上させていく。こういったことに取り組んでいるところである。

**9 ①国道の維持管理 ②大隅地域振興局曾於市駐在の職員数 ③志布志保健所の建替え  
④志布志港の道路・公園管理 ⑤観光に向けた枇榔島の整備 ⑥志布志ICの植栽 ⑦県  
道3号線日南志布志線の拡幅について**

- ① 国道220号線について、草木により信号が見えにくい、歩道が通りにくい場所がある。観光道路という観点から、道路の維持管理をしっかりとするよう県から国土交通省へお願いできないか。
- ② 曾於市、大崎町、志布志市を管轄する大隅地域振興局曾於市駐在について、職員が少なく対応に苦慮している姿を見受ける。職員を増やして欲しい。
- ③ 志布志保健所が老朽化している。利便性のよい近代的で衛生的な建物への建替えをお願いしたい。
- ④ 志布志港の道路と公園の維持管理について、十分な清掃等ができていない状況だと思う。協力金について県から立地企業へお願いできないか。
- ⑤ 志布志港沖に浮かぶ枇榔島について新たな観光地になるように、志布志市と一緒に栈橋や遊歩道を造ることができないか。
- ⑥ 現在工事中の志布志ICにビロウ樹を植栽していただくよう県から国土交通省へお願いできないか。南国のイメージが高まり防草にもなると思う。
- ⑦ 県道3号日南志布志線の大性院地区について、高速道路の工事のために仮設で一部を拡幅しているが、工事が終われば元の狭い道路に戻すということである。急カーブで一番狭いところであり、仮設の道を生かして県の予算で改良工事をお願いできないか。



(西高悟 議員)

1番目について、要望いただいた所は、大隅河川国道事務所をお願いし対応いただいているところであるが、なかなか進んでいない場所がある。国も管理費が非常に少ないこともある。また色々と要望いただきたい。

2・3番目については、本日は大隅地域振興局の職員も来ており、よくお聞きいただいていると思っている。志布志保健所については、将来的に移転し鹿屋の大隅地域振興局と一つになるということもあり得るので、志布志に残していただけるように県に要望していきたいと思っている。

4番目については、良い提案をいただいた。企業の方を含めて協賛金を求めながら管理をしていく。このことについては、これもまた本日は大隅地域振興局の職員が来ているので、私も何とか方法はないのかということで伝えながらやっていきたいと思う。

5番目について、枇榔島は林野庁の管轄となっている。前の栈橋が流されて、浮栈橋という話がある。例えば志布志市が観光関係の方々と一緒になって造っていくという方法であれば可能であると思うが、県の地域振興局予算から補助をいただいて志布志市が実施を検討をするという方法もある。こういったものを使ってやれないのかということは前々から検討はしているが、残念ながら実現に至っていないというの現状であり、今日新たに宿題としていただいた。

今日はピロウの植木を持ってきていただき会場が非常に良い雰囲気となった。6番目については、大隅河川国道事務所の方に要望をしたいと思う。

7番目についてだが、県道3号線、112号線、110号線など、県道の拡幅工事が動き出している。御要望の箇所については、大隅地域振興局とも話をしながら検討してお伝えできたらと思っている。

(瀬戸口三郎 議員)

県の地域振興局について、私も議員になって初めての一般質問がこのことだった。大隅半島はこんなに広いのに地域振興局がなぜ1つなのかということをお訴えてきた。仕方ないことではあるが、曾於市駐在ということで残していただいた。そのようなことで、曾於市駐在で足りないときは本所から応援が来るとのことだが、なかなか人手が足りないというのも事実である。

もう一つの問題として国営畑かん事業が終わると畑かんセンターの耕地関係の職員が撤退するということもある。県議の方々もよろしくお願ひしたいと思う。

## 10 農産物の輸送コストについて

運転手不足等により農家の輸送コストにかかる経費負担も年々大きくなっている。輸送体系として、志布志港を拠点に関東・関西へ大隅半島の農産物を輸送するテクノスーパーライナー（高速貨物輸送船）構想というものが昔あげられていた。そういった体系を作っていくことが農家にとっても実利的なのでは。テクノライナー構想を知っている方がおられたら参考にさせていただきたい。

(西高悟 議員)

テクノライナー構想は本当に良い構想としてあったが、あの時代にはそぐわなかったんだろうと今思っている。現状としては、農産物が大阪より先が届きにくい状態となっている。ドライバーをどう確保するのかなど運送業関係も色々やっているが、非常に難しい。新幹線貨物という考え方も出てきている。

この問題については、県をあげて、あるいは、私達もこの大隅半島の地域をあげて大隅地域振興議員連盟でも一つの議題として県選出の国会議員の方にも相談しながら考えていかなければいけないと思っている。非常に大きな規模の構想であるので、そうそうすぐにはできるということではないが、将来的にはあり得るのではないかと今思っており、良い御提案をいただけたということで承っておく。

## 11 常任委員会のインターネット中継及び県議会臨時会における討論について

非常に簡単ですぐできる、費用もかからない要望がある。常任委員会のインターネット中継をすぐ始めていただきたい。先月開催された臨時会において、本会議は全てインターネット中継で見られたが、委員会での議論はインターネット中継が無く、何を議論されたかさっぱり分からなかった。今はインターネット中継はスマホのできる時代なので実施していただきたい。大隅だけの問題ではなく、奄美、種子島、屋久島の方々も県議会傍聴のためにわざわざ高い費用を出して来られない。大隅からも県議会まで往復4時間、フェリー代もかかる。12月議会で提案するなりしてやっていただきたい。反対される方はいないと思うが、反対の方がいれば挙手していただきたい。

また、臨時会の最終日の本会議において討論があったが、自民党からは討論が無かった。どうしてなのか説明していただきたい。

(おさだ康秀 議員)

常任委員会のインターネット中継については、デジタル化社会であり、おっしゃるとおりである。今は本会議のインターネット中継はしている。常任委員会もという声も少しずつ上がってきているので、このことはしっかり議会として要望として承りたい。

討論のことについては、ここで話すと長くなることから、恐縮ではあるが、あなたのそばで県議会の終了後に別に御説明させていただきたい。

(藤崎剛 議員)

県議会で本会議のインターネット中継が始まったときに議論の場にいたが、その時に、常任委員会、特別委員会等もインターネット中継の対象とするかどうかの判断があった。

当時は、財政上の理由があって委員会の中継については見送られた経緯がある。また時代が変わってIT機器、インターネット中継の費用等々も当時とは違っただろうから、おさだ議員が話したとおり、今後の宿題として預らせていただくのが、この場では一番よいのではないかと思う。

## 12 広域での連携，高等学校・専門学校等の誘致，外交・安全保障について

他県出身で全国転勤を経て14年前から志布志市に居住しているが，志布志は居住地として非常に素晴らしく，大隅全体も地域力が高いと思う。

志布志港には遠方からも働きに来ており，自分も都城まで買い物へ行く。「大隅地域の未来」を考えるには，県域を越えた連携も大事だと思う。観光産業についても，東京・大阪の方が大隅に来てゆっくり英気を養って，都会に帰って頑張って働いてもらう。日本に貢献するというような勢いでやっていただきたい。これも大隅全体の連携，調整，協力が必要である。

志布志は介護，福祉も素晴らしいところ。あとは高等学校や専門学校の誘致や日本の福祉の推進地域としての高齢者の受け入れ，そういうところも頑張っていたきたい。また，外交・安全保障への理解もよろしく願いたい。

(おさだ康秀 議員)

要望として承らせていただく。本当に大隅地域を愛しておられるなと感じた。議員の方々にもしっかりと熱意，思いが伝わったと思う。

## 13 和牛のPR・消費拡大について

私達の高校（県立曾於高等学校）は昨年の和牛オリンピックで全国一を取った。畜産をもっと盛り上げるべきだと思うが，肉の値段がどんどん下がっていると聞いた。もっと県外にアピールしていかないといけない。県民で和牛を食べる方が少ないと思うので，もう少し食べる機会を増やせるように頑張っていたきたい。

(鶴藺真佐彦 議員)

和牛県鹿児島といっても，鹿児島の方々が食べているかという非常に少ない。自分達の地域のものの素晴らしさを，口で味わいながら宣伝できるような仕組みというのを考えていく必要があり，良い提案だと思っている。

今，子牛の値段が下がっているのは色々な要因がある。ウクライナ情勢の問題で穀物が非常に入りにくくなってきている，あるいは，中国での消費が増え，中国にいわゆる買い負けしているなど。先日も酪農家の方々と話をしたが牧草も非常にコスト高になっているとのことだった。

県選出の国会議員が中心となって「食料・農業・農村基本法」の見直しの動きがある。その中で食料安全保障，持続可能な農業農村のあり方，生産コストを価格にしっかりと転嫁して販売できるような，そういった運動を国民にも理解いただいて，かかった経費は販売単価にませ換えていこうという動きもある。我々県議会でも，そういったことをしっかり取り組んでほしいということで，国への意見書を9月に出させていただいたところである。

#### 14 空き家対策及びバスケットコートの整備について

志布志や大隅地域を見ていると閉店した建物がそのままだったり、取り壊した後の土地がそのままだったりしている。そういった土地をどう使っていくのか。

また、自分はバスケットボールをしているが、ワールドカップでもバスケットボールがあり、バスケット人口は増えると思う。鹿児島市内の方には屋外バスケットボールコートなどがあると思うが、大隅半島の方にも作って欲しい。

(西高悟 議員)

志布志の町も商店街も5軒連続空き家になっていたりする。これは地域の大きな課題である。老朽化したものを撤去していかないと通行する人たちにも危ないという場所もあることから、空き家対策はしっかりと進めていかねばならないと思っている。

土地の活用については、先ほどの娯楽施設の質問であったショッピングモールの話もそうであるが、例えば、空き家が増える中、商店街の皆さん方が、市と一緒にしてそういうショッピングモールを誘致する、市と一緒にして地域の活性化のために建設をするといったことは大切だと思うが、県の方でできるということはまずない。県有地であれば、ジャパンアスリートトレーニングセンターのようにできていくこともあるが、民有地を県が買ってやっていくということは非常に難しいと思っている。

バスケットコートについては、今日は志布志市議会の議員の方々が来場している。ぜひ、志布志市でも潮風公園や体育館周辺といったところにバスケットコートを作ってほしいとお願いするというのも1つの方法だと思う。志布志市議会においては地元の高校生から要望があったということで志布志市にも話をしていただき、県においては地域振興局予算があるので一緒にやれればと思う。そういった形で、前向きな方向でお願いしたいと思う。